令和６年度 第１回 四日市市子ども・子育て会議　議事概要

日時：令和６年５月１３日（月）
午後２時３０分～午後４時２０分
場所：四日市市役所６階　本部員会議室

**１　開会**

**２　議事等**

**（１）会議設置要綱の改正及び委員の委嘱について**

**○事務局**　資料説明

（質疑なし）

**（２）「四日市市こども計画」の策定について**

**○事務局**　資料説明

**○会長**　かなりボリュームがありますので、いくつかに分けてご意見を伺っていきたいと思います。現時点では、量的調査が終わった段階であり、資料２，３の調査結果報告書をご覧いただきながら、資料４についてご議論いただければと思います。

資料４については、昨年度からご出席いただいている委員の皆様は、新しく記載が追加されたと感じると思いますが、３ページをご覧いただくと、「四日市市こども計画」には、現行の「子ども・子育て支援事業計画」に加え、「子ども・若者計画」などが追加されますので、ひらがな「こども」として、こどもの年齢に関係なく、成長の発達過程にある者が対象となり、若者の視点も含めた、かなり幅広い総合的な計画になっていきます。

このような位置づけになることを踏まえて、皆様からご意見をいただきたいと思います。

かなり総花的な計画になりますが、まずは５ページについて、特に力を入れていくべき項

目、不足している項目などあれば、ご意見いただけますでしょうか。また、６ページの構成についてもご意見いただければと思います。そのあとに、ワークショップやヒアリング調査についてお伺いしたいと思います。

**○委員**　５ページについて、小学生低学年の保護者、中高生がアンケート調査の対象になっていますが、小学生高学年が抜けているのはなぜでしょうか。また、これからワークショップの開催を予定していますが、中高生だけでなく、小学生低学年高学年も混ぜてもらいたいと思います。さらに言えば、高校生以上の大学生も参加してもらえるような環境にならないかと思いました。

インターネットについて、中学生からスマートフォンを持つだろうと思われるところもあろうかと思いますが、実際に我々が関わっているこどもは小学校低学年からスマートフォンを持っているというのが現状です。保護者がスマートフォンを持たせ始めるのは、小学校低学年であり、早ければ１年生から持っていますので、インターネットのことについては、ネットリテラシーの話がありましたけれども、使い方の話をできると良いと思います。低学年だから分からないだろうなどと思いがちですが、今の小学生はすごく情報を持っていますので、その場にいても考えていけると思います。意見を言う場はあってもなくてもいいと思いますが、大学生や高校生の考えやアドバイスができるような一貫したサポートをできる環境があると良いと思います。

**○事務局**　小学校高学年の部分が抜けているということについてですが、こども計画で新たに対象となってくる部分（思春期や青年期）のアンケート調査として中高生対象に調査をさせていただきました。そのアンケート結果を更に深掘りするためにワークショップを開催したいと考えています。小学校高学年については、生活実態調査の中で小学５年生と中学２年生を対象としていますので、そちらでフォローしています。ワークショップについては、小学校高学年の意見聴取する機会がないか検討します。一方で、こども家庭庁の意見反映のガイドラインでは、どの年齢の子どもたちの意見をどのようにくみ取るかであったり、参加者の年齢層を広くすべきか、ある程度の年齢の幅で区切るべきかなど記載されていますので、方法や対象は考えさせていただければと思います。

**○委員**　小学生の頃から結婚や大人になっていく生活について考えていく機会を混ぜても

よいのではないでしょうか。今の保護者や若い世代の方々はもっと早くから教えてもらえればよかったという話を聞きます。そうであれば、小学生の頃から関心を持って、どのように生活していくか、稼ぐか、性、お金、インターネットなどについて小学生から取り組めるようになるといいと思います。

**○委員**　小学生・中学生を対象にスクールソーシャルワーカーをしていて、個別の相談で中学生に会っていると、健康に関しての意識が非常に低いと思いますし、教育を受けていないのではないかと思うことがよくあります。例えば、女子高校生ですと、食に関して敏感になっていて、お昼ご飯もほとんど食べていない、小さなお弁当でＯＫというような状態になっています。しかし、食べ物が自分の体と心を作っていて、後の自分のこどもにも繋がっているという意識が欠けていると思います。食に関しては、こどもが自分の責任ではなくて、家庭でどうゆうものを食べさせてもらっているかというところが大きいと思います。非常に添加物の多いものを食べているということがアンケート結果にも表れていますが、カップ麺などを週１回食べていることが当たり前になっています。このような食べ物があまりにも手軽に食べられるため、良くないと思っていないところがあると思います。５０，６０代に聞くと、こどもの頃にはそういった食べ物がなかったので、体を作る時期にはそういうものは食べていませんが、今のこどもは０歳から添加物の入った物を食べています。それらが発達課題にも影響を与えていることは世界的にも分かってきています。これらについて、教育を受けたり、家庭に対しての教育の機会が欠けているのではないでしょうか。医療関係に関しては、保健などもありますが、具体的に支援として入らないかと思います。

　また、最近は特に香害（柔軟剤など）がひどくなっています。学校教育では、給食のエプロンをみんなで使い回すので柔軟剤の臭いが集積されてひどくなっていきます。ひどいと頭が痛くなり、密閉されて近くにあると教室や学校に入れないということが全国的にも起きています。その教育がどこで得られるかというと、意識しなければ得られるものではありません。香害については、臭いの感じ方は人によって異なりますから、エチケットには気を使いましょうと言われたりしますが、体に悪いものであるという情報が提供されておらず、乳児の頃から、化学物資を肌につけて、吸って育った時にどうなるかなどについて、環境・健康の教育が早急に必要だと思います。小学生や中学生を教育しても家庭で使っているものは変えられないと思いますので、危機感を持っています。インターネットに関しても、頭の健康として受け身的に知識を得ていますけれど、衝動性などにもつながりますので、子育

ての時期にこどもが意識しても避けられないものがありすぎて危機感を覚えますので、特に保護者への教育をどこかに入れていただきたいと思います。

**○事務局**　子育てをしている方の項目の家庭教育支援のところで、保護者に対する情報の周知などとして捉えさせていただきましたので、検討させていただきたいと思います。

**○事務局**　５ページの「こども・若者施策の重要事項」の上から２つ目「遊びや体験、活躍できる機会づくり、生活習慣の形成・定着」というところがあり、この項目では、現在も本市で行っている「早寝、早起き、朝ごはん」の運動であったり、乳幼児からの親子に対して母子保健の段階から食生活についての啓発、食育が含まれます。どの項目になるかはこれから検討させていただきますが、いただいたご意見についても触れていきたいと考えています。

**○委員**　学童期・思春期のところで、「多様なこどもに対する多様な学びの場の提供」において「スクールソーシャルワーカーによる相談支援の充実」が拡充と記載されており、これは求められていることだと思いますが、多様な学びの提供として具体的な取組がここでは見えないように思います。どういったことを考えられているのかということと、多様なこどもを考えると、社会的養護に重点を置かれている印象を受けますが、障害児や医療的ケア児もありますが、外国にルーツのあるこどもなども含めて考えているのかお聞かせください。

**○事務局**　当該項目については、記載した事業の他に、学校関係の事業が多くあります。例えば、いじめ、不登校、発達障害、家庭環境に関する事業があり、その中で特に記載した２つの事業を「今後、充実させていきたい取組」としています。

**○事務局**　多様なこどもについては、医療的ケア児であったり、先ほどお話にあった外国にルーツのある子どもも含めて、多様なこどもという捉え方をしています。

**○委員**　性の多様性についてですが、先ほどの外国にルーツを持つこどもや障害児などの中に、性別の認識の違いも含まれていますか。

**○事務局**　性の関係については、全世代共通のこどもの人権尊重の項目に記載していきたいと考えています。「今後、充実させていきたい取組」としては現時点では入っていません。

**○委員**　「多様なこどもに対する多様な学びの場の提供」について、私もスクールソーシャルワーカーをしていまして、相談支援の充実は良いと思いますが、テーマとの関連性を見ますと何を期待されているのかと感じました。多様なこどもの意見を吸収したり、学びの場があることはいいと感じていますが、具体的にどのように提案し、実行していくかの経路はスクールソーシャルワーカーにありません。学校や教育委員会と話をしますが、性の多様性や香害など様々な問題について相談を受けていますが、その話がどのように吸い上げられて対策が行われていくのかについては、スクールソーシャルワーカーの中ではもんでいませんし、スクールソーシャルワーカーは窓口の役割とは思いますが、何を期待されているのか教えていただければと思います。

**○事務局**　一般的な話になってしまいますが、スクールソーシャルワーカーの活動はこどもに一番近いところの活動であり、そこで吸い上げていただいたものを必要な支援につなげていただくことがメインだと思います。こども計画に関しては、スクールソーシャルワーカーの活動の充実があり、その先で香害や食育を推進していくためには計画を立てていくことが大切だと考えています。項目の見出しは「多様なこどもに対する多様な学びの場の提供」ですが、全てをスクールソーシャルワーカーにお願いするのではなく、まず吸い上げていただくという役割は理解しており、それが実際の施策につながっていくような計画にしたいと考えています。

**○委員**　関連になりますが、「多様なこどもに対する多様な学びの場の提供」で思いつくことは、ＩＣＴの活用です。ＩＣＴを活用して学校に行きにくいこどもでも一緒に議論ができるということもやっていると思いますので、そういったことも記載されていてもよいのではないでしょうか。

**○委員**　学童期・思春期の「こどもの居場所づくり」について、子ども食堂が市内では広がっています。小学生低学年は学童や子ども食堂がありますが、中学生以上は部活や塾に行っているから大丈夫といった認識が社会的にあるだろうと思います。一方で、居場所がなく、

困っているこどももいます。桑名市では試験的に学生が自由に行ける場を作って、利用率が意外と高かったということもあり、できれば、居場所づくりの広がりを学童期だけでなく、思春期、青年期まで幅広くとっていただけるとよいと思います。

**○事務局**　どこかの項目出しをしたときに、学童期・思春期に入れましたが、高校生以上の居場所につきましても大切な課題だと思いますので、そういった視点も今後研究していきたいと思います。

**○会長**　ご覧いただいたとおり、計画に関しては非常に総花的なものになります。四日市市が悪いということではなく、こども家庭庁がいろんな分野を寄せ集めてできており、こども計画はこのように広がりを持ちます。ニーズ調査から、四日市市がどこに重点を置くのかを考える必要があります。濃淡や比重をかける部分と、他の自治体より健全に進んでいる部分もあると思います。調査結果の説明にあったように、経済状況が子育てに大きな影響を与えていることは見えており、実質賃金が伸びなかったり、若い世代の収入が伸び悩んでいたりして、共働きが増え、保育ニーズがまだ増えていく、学童保育も増えるかもしれない状況があります。その背景には、ワークライフバランスが浸透してきたことよりも、共働きでないと生活できない家庭が増えている現状があり、そこから保育の必要があり、貧困に陥りやすい家庭の中に、外国にルーツがあったり、ひとり親の貧困率が高いことも見えてきています。そういう相対的貧困の家庭のこどもが３食食べられていなかったり、ネグレクトまでではないまでもほったらかしになっているということが、根っこでつながっていると思います。計画では、分散していろいろな取組を記載するより、根っこにあるものを捉えて、対策を打つ形で計画を策定しなければ、どこに予算をつけるかの濃淡が見えにくいと思いますので、そこをしっかり捉えていただければと思います。

**○会長**　続いて、資料４の８ページから１１ページの子育ての当事者、中高生のワークショップや関係団体のヒアリングについてです。こちらは、こどもに聴いた方がよいことや調査の方法などについてご意見を伺いたいと思います。

**○委員**　ワークショップについて、テーマは仮ですので今後検討されると思いますが、中高生のテーマでインターネット・ＳＮＳの危ない経験などについては、既に学校教育でも取り

上げられていますので、先ほどの重要な項目もありますので、もう少しこどもが夢を描いてキャリアに向かえるようなことをテーマに取り上げていただけるとありがたいと思います。また、居場所についても場所をイメージされていると思いますが、家庭か学校かという話ではなく、誰とどう過ごすかが中高生にとってはとても大事なことですので、場所に限定せず、こどもの心理的居場所ということを取り上げていただくことがよいのではないかと思います。最後に、ヒアリング対象団体を記載していただいており、社会的擁護の問題に重点が置かれていますが、保健の分野では保健師や、障害児に関わる団体など、もう少し異なる視点から幅広くヒアリングをしていただけると多様な子どもについての状況が拾い上げられるのではないかと思います。

**○事務局**　中高生のワークショップについては、高校の先生に相談させていただいた際にも、インターネット・ＳＮＳに関する教育は学校でもすでに取り組んでいるとお聞きしています。夢を描くことやキャリア、居場所についてもご意見を参考にしてワークショップの内容を検討してまいりたいと思います。また、ヒアリング団体についても案の段階ですので、再考させていただきます。

**○委員**　ワークショップについて、市議会議員を交えて実施していただけるといいと思います。また、ヒアリング調査につきましては、保健師という話もそうだと思いましたが、企業団体なども入れてはどうかと思います。生活、働く場所、賃金という点においても、四日市市内の企業にもこどもをまんなかにしたまちづくりに入っていただき、意識してもらえる機会になればと思います。

**○委員**　ヒアリング調査の対象として、スクールソーシャルワーカーが入っていますが、学校現場で子どもに近く信頼関係を構築していると言えばスクールカウンセラーや支援員もいらっしゃいます。また、ワーカーが頼りにしている養護の先生がいらっしゃるので、ここには教員はありませんが、学校現場で子どもに近い人をぜひ入れてほしいと思います。

**○事務局**　ヒアリングは事前に調査票に記入していただき、そこから深堀していく形を想定しています。時間的にどのように進めていくかという問題はありますが、検討してまいりたいと思います。

**○委員**　不登校のこどもの意見がなかなか聞いてもらえなかったり、親が意見を出す場面が無いとよく聞いたりしますので、スクールソーシャルワーカーへのヒアリングでそこがかなうのかどうかはわからないですが、そこも考えてほしいと思います。

**○会長**　そういったことも含めて、精査していただければと思います。減らしたり追加したりしていただければと思います。

**○委員**　ワークショップについて、中高生のテーマが難しいと思います。このテーマで募集チラシを見て参加しようと思うテーマかどうかと考えますと、難しいのではないかと感じます。インターネット・ＳＮＳの利用は個人的な経験のことだと思いますが、地域の行事・イベントは自分の地区のことなのか、市全体でこんな姿を思い描きたいということなのかなどテーマの決め方が難しいと思います。現状このテーマで中高生が参加しようと思ってくれるだろうかと思います。

**○事務局**　ワークショップの募集にあたって、見出しとしては、こどもの政策提案と記載していこうと考えています。その中で取り上げる項目として、インターネットや居場所、イベントなどをあげさせていただきました。こどもの意見をどう反映して政策に結びつけるかということがあり、実際にこどもがどういう現状にあるかということと、どうしてほしい、どういうものがあればいいかというアイデアをいただけるワークショップにしたいと考えています。そのテーマの例としてインターネットや居場所を出させていただきましたが、ワークショップの中でこどもから出てきた意見に対して、こども自身がどうしていきたいかを答えていただく形で、ある程度フレキシブルな会として進めていきたいと考えています。

**○委員**　北勢地域若者ステーションは就労に関する支援をしています。４９歳までの方の就職まで道のりをサポートしていますが、高校生など不安に感じていることは、将来自分がどうなっていくか不安という方が多く、中高生もそうだと思いますが、興味ある分野は進路のことだと思います。自分がどういう道に進めばいいかについて、学生時代に分からなくて行ける学校に行ったら、卒業してから就職をどうしたらいいかわからないということで我々などの支援機関に来る方が多いので、結婚や子育てではなく、働くということを意識し

て議論する場があると、私たち大人もどのような支援が若者に必要かという気づきが得られるのではないかと思います。

**○委員**　ワークショップの対象について、子育て当事者とありますが、これは誰を想定していますか。

**○事務局**　現在のところは主に０～６歳の未就学の子育て当事者を考えています。

**○委員**　こども側として考えた際に、あなたの居場所というテーマについて、何がいいかなど聞かれたときに、大人はその理由を聞きますが、好きや、いいと思っていることに特に理由は無く、聞いてくることに対して嫌だと感じることもありますので、その理由をいちいち聞く必要性はあるのかと思ってしまいます。

**○事務局**　どのように聞けばよいか分からなくなってしまいましたので、また教えていただければと思います。

**○会長**　インタビューの方法については大学の先生に聞くなどして、包括インタビューなどの方法もありますので、意見が聴き取れる方法でできればと思います。また、不登校のこどもや若者の意見は各方面でありますので、公募でも特定の層に偏る可能性がありますし、本会議でもこれだけの団体の皆さんがいらっしゃいますので、ヒアリングの前に各団体から不登校の保護者の間に入っていただくなど、関係団体から事前に調整していただいて偏らずに様々な課題のあるこどもの意見が聴き取れるようにしていただければと思います。公募においては、学校からお願いをすることも考えられますので、連携を取ってうまくこの会議を使い、それぞれのグループにいろいろな属性が入るように工夫をしていただければと思います。個人的には、他自治体の子ども子育て支援事業計画に関わっていますと、支援をしても大学に行くとみんな都市部に出て行って帰ってこないというぼやきもよく聞きますので、四日市にどの程度愛着や帰属意識を持っているかも尋ねてみてもいいのではないかと思います。難しい質問ではなく、「四日市市が好きですか」とか「将来四日市で生活したいと思いますか」などを聴くことで、こどもの本音が見えてくるかもしれません。こどもが四日市で生きていきたいと思わなければ、今後、自治体間競争で若者の取り合いにもなっ

てきますので、四日市のまちについての愛着や帰属意識も確認してもらえればと思います。

**○事務局**　資料２の１３５ページ問３２において「あなたは、高校や大学を卒業して働き始めたり結婚をしたりしても、四日市市に住み続けたいと思いますか」と中高生を対象に調査をしています。「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」という回答が４割に満たないと結果となっており、「わからない」という回答が正直なところもあると思いますが、「住み続けたくない」が約１０％ということもあり、愛着と言うところも検討したいと思います。

**○会長**　それでは、次回の会議で検討していただいた結果をご報告いただければと思います。

**３　その他**

**○事務局**　保育幼稚園課から協議事項となります。本日配布しました資料「保育所当の入所利用調整方法の見直しについて」をご覧ください。タイトルの下に「兄弟姉妹が別園に入所する状況の改善」と記載しています。入所利用調整方法を原則とは異なる取扱いに変更する場合は、子ども・子育て会議において調整方法を提示し、了承を得ることと国の通知でされておりますので、今回の会議にお諮りさせていただきました。
（資料説明）

**○会長**　ご質問等ございますでしょうか。なければ、お認めいただいたということでよろしいでしょうか。

**○一同**　異議なし。

**○会長**　それでは、本日予定していた議事は以上となります。

**４　閉会**